

WINDOW



「南海地震の基礎知識」を学ぶ受講者

言語別でのロールプレイ



災害時語学サポーター養成講座

2007
Autumn
No.47

特集 ● 多文化共生に向けた取り組み

- 2007ジュニア国際大学
- 民間国際交流団体紹介
アフリカの雫
R.D.Congo子供基金
- 頑張りゆうぜよ! Genki青年会
- Letters from abroad
古本聡子 (アルゼンチン)
- INFORMATION BOARD
新しい県国際交流員の紹介 宋璐 (中国)
国際ふれあい広場2007のご案内

2007 ジュニア国際大学

- ・開催日時：平成19年6月23日(土)10時～16時
- ・会場：県立青少年の家(いの町天王)
- ・目的：小学校高学年(4年生～6年生)を対象に、国際理解や異文化コミュニケーションに必要な基本的知識・技能を習得させ、21世紀を担う未来の「国際土佐人」を育成します。
- ・参加費：1,000円(昼食代・保険料含む)



今年で3回目となったジュニア国際大学は、今年もいの町天王にある県立青少年の家大会室にて開催しましたが、今年は遠く西は四万十市(旧中村市) 東は室戸市から総勢34名の小学生(4年生18名、5年生10名、6年生6名)が集まってくれました。

午前の授業は渡邊拓哉先生(「国際理解の風を創る会」所属)によるタイでのホームステイの話でした。ゲームや自己紹介をして楽しく授業をする環境を整えた後、渡邊先生



タイの話をする渡邊先生(左端)

えながら授業を進めていきました。

先生は日本語が全く通じない家庭に4日間ホームステイをしました。自分の気持ちを相手にどうやって伝えますか?という問いかけに対して、子どもたちからは「ジェスチャーを使う」「絵を描く」「覚えている単語を使う」などの答えが返ってきました。また先生から、ホームステイ先の家族とどうやって仲良くなれたかの説明があり、「一緒に歌を歌った」「一緒に体を動かした」「タイ語の本を使って自分のことを話した」など、時折ユーモアを交えながら話してくれました。



ゲームをして相手のことを知る

最後に先生から、友だちと仲良くなりたいたい時どうしますか?という質問が出されました。子どもたちは思い思いの回答を先生に返しましたが、いずれの答えも先生がタイのホームステイ先の家族と仲良くなるためにしたことと共通するものでした。このことから、国際交流は何も特別なことではなく、友だちと仲良くすることと同じことだということ子どもたちは自分なりに考え、理解したのではないかと思います。

午後はお待ちかねの外国人先生との「遊び」の時間です。今年はオーストラリア、中国、韓国出身の県国際交流員とメキシコ、ルクセンブルク出身の在住外国人が先生となり、それぞれの国の子どもたちがやっている遊びをその国の言葉で体験してもらいました。今年は韓国以外の遊びがすべて活動的だったので、子どもたちはすぐに汗だくになってしまいましたが、それでも真剣に遊んでいる姿を見ると、子どもの遊びに国境はないことを証明してくれているようでした。



韓国の遊び「カムジャエ・サギナソ」

最後の授業は松尾泰輔先生(JICA 国際協力推進員)による国際協力の授業です。物質的に何でも満たされている日本にいると見えてきませんが、世界の約65億人のうち約9億人(7人に1人)が食糧不足に陥り、約20億人(3人に1人)が電気の供給を受けられず、約6億人(10人に1人)が安全な水を得ることができず、学校に行けない子どもが日本の人口を上回る約1億5千万人もいるという話をスライド写真を交えて聞かせた後、子どもたちに「世界の人を



最後の発表の様子

救うには」というテーマでグループでの討論と発表をしてもらいました。発表では、「食べ物を残さない」「緑を増やす」「リサイクルをする

」「水を汚さない」といった環境や資源の保護に訴えるものから、「世界中に笑顔を広めよう!」といったスローガ的なものまで、子どもの視点ですばらしい発表が行われました。

今年のジュニア国際大学で一番うれしかったことは、2年前の第1回目から参加してくれている小学生がいたことです。ジュニア国際大学は小学校高学年(4～6年生)を対象にしているのですが、6年生にとってはこれが最後の「大学」になりました。今回の経験を是非、弟や妹、近所の子どもたちなどに伝えていって欲しいと思います。

民間国際交流団体紹介

NPO アフリカの雫

日本代表 葛目 収治
ケニア代表 バートン・グリム

ケニアにおける慢性的飢餓状態を改善することを目標に2003年9月に設立された任意のNPOです。代表がJICA青年海外協力隊隊員として勤務していた学校の当時の生徒のバートンが主宰するケニアの自助組織、ファームテック・フード・グローワーズ(貧困農家30名を集め、自分たちの生活改善を目標として農業に従事する農民の集まり)を経済的に日本より支援しています。現在、日本での会員数は10名。日本での主な活動は広報活動、募金活動。年に数回、現金や衣類・文房具などをケニアに送っています。

所在地

〒781-0270 高知市長浜 822 TEL & FAX:088-848-0213

メール:shgkuzume@ybb.ne.jp

ホームページ:http://blog.livedoor.jp/shg/

日本代表:葛目収治

< 氣功教室主宰 >

日本代表が主宰する氣功教室の収益の半分を、アフリカの雫の活動資金として送金。

事務局:パワーショップ晶

〒781-8134 高知市一宮中町2丁目6-18

TEL & FAX:088-845-7738

< 通年募金実施 >

ここでドリンクを一杯飲むと、その都度50円がアフリカの雫に寄付されるために積み立てられる。



ケニア孤児院にて

支援実績:2007年7月現在まで

現金:約195万円 衣類:約70kg その他:文房具 パソコン・カメラ約30万円相当のもの、自転車1台

会員資格:この会の趣旨に賛同し活動を支援してくださる方

2007年の活動

- 1)ファームテック・フード・グローワーズへの送金(3月22日、44万円)
- 2)高知大学 国際協力論にて講義(7月22日)
- 3)高知シティFM出演(8月1、8、15日、午後5時よりアフリカの雫の紹介)
- 4)活動報告 8月19日(午前10:00~12:00 福祉交流プラザ)
- 5)国際ふれあい広場2007参加(高知県国際交流協会・国際ふれあい広場2007実行委員会主催)

R.D.Congo 子供基金

日本代表 増田 弘誠
R.D.Congo 代表 Ngatu Niandu Roger



キンシャサ CSTP-SONGUA 小学校、21アルボリジンの子供たちへ筆記用具を寄贈

アフリカ中央に位置するコンゴ民主共和国は人口約5500万人~5800万人、面積2345,000km²の豊かな資源に恵まれた国です。

ベルギーから独立以後、1965年から30年以上モブツ大統領の独裁体制下に

あり、国名をザイルと呼ばれていました。1997年5月、ルワンダ、ウガンダの支援を受けた反政府勢力ローラン・デジレ・カピラ(コンゴ・ザイル解放民主勢力同盟議長)が首都キンシャサを制圧し、国名はコンゴ民主共和国となりました。しかし、9カ国もの国と国境を接するこの国は、豊かな資源に対する利権争いも手伝って、ウガンダ、ルワンダ、ジンバブエ、アンゴラ等が国内の政府、又反政府勢力、武装民兵組織等と結びつき、内戦から国際紛争に発展し、国内経済は完全に破綻し、戦闘地域から逃げる国内難民で首都キンシャサの治安は悪化の一途をたどりました。2001年1月、ローラン・デジレ・カピラ大統領は暗殺され、最終的に2006年12月、息子のジョセフ・カピラが正式に大統領に就任しました。

ジョセフ・カピラ大統領は、国民対話の推進、近隣国、欧米との関係改善、又国内経済の復興に向けて努力していますが、内戦や近隣諸国との紛争の傷跡は、簡単には修復できない状況です。

首都キンシャサには戦争やエイズで親を失った子供たちがあふれています。その中には、民兵組織によっていきなり誘拐され、

少年兵や少女売春に使われた子供たちも交じっています。彼らは皆、その日一日の食べ物を求めて必死で生きています。学校に行くこともできない彼らは成長と共に、犯罪に手を染め、暴徒のようになっていくのです。国連をはじめ、多くのNGO団体がこの子供たちに手を差し伸べていますが、まだまだ足りません。

RDCongo 子供基金は、このようなストリートチルドレンをはじめ、貧しさのため就学できない子供たちの助けになりたい願いから、2006年4月高知で設立されました。事務局長のンガツ・ロジェ氏は国連ボランティアの医師として、2003年4月にはじめて来日するまで、内戦下の国で働き、子供たちの悲惨な状態を見てきました。

* 活動内容

日本国内

生活物資、学用品を集め支援する。

里親制度(就学支援)の確立。

RDCongoの現状を紹介するための各種イベント。(国際ふれあい広場2007にも参加します)

R.D.Congoにおけるプロジェクト

医療奉仕を目的とした病院の建設。

孤児たちが生活できる新しい村の建設(自給自足できる環境をつくりたい)

公衆衛生教育、栄養改善指導。

エイズ予防教育。

高知事務所

〒783-0011 高知県南国市後免町3-1-12 2F(中村方)

TEL & FAX:088-864-6797

E-mail:rdc_kodomokikin@yahoo.co.jp

多文化共生とは

今回の特集は「多文化共生」です。皆さんは多文化共生という言葉にどんなイメージを持つでしょうか？多文化共生とは、「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」（「多文化共生社会の推進に関する研究会報告書」2006年3月総務省）と定義されています。この言葉が生まれた背景には、外国人の定住人口の増加が第一に挙げられます。入管法改定（平成2年）以来、南米出身の日系人の入国が促進されるなどの結果、平成18年末に日本の外国人登録者は208万人を超えました。これは平成9年末と比較して約60万人の増加となっています。本県も10年前と比べ約1.5倍の3,655人と、その数は着実に増えています。

第二に、外国人の定住化に伴い言葉の壁によるコミュニケーション不足や生活習慣などの違いから来る様々なトラブルが顕在化したことが挙げられます。必要な行政サービスが得られない、勤務先を理由なく解雇されてもどこに相談していいのかわからない、ゴミ出しのルールが分からずゴミを引き取ってもらえなかったなど、生活のあらゆる場面で障害が出ています。特に、医療や災害など人命にかかわる分野でのコミュニケーション支援は緊急に取り組みなければならない課題と言えます。



南海地震対策

今年度から本格的に取り組み始めた事業で、今年度は以下の3つの事業を（財）自治体国際化協会の助成制度を活用して実施、または実施予定です。

- (1) 災害時語学サポーター養成講座の開催
(7月28日・29日実施)
- (2) 6カ国語によるパンフレットの作成
(平成20年1月末発行予定)
- (3) 6カ国語によるHP、携帯サイトでの情報提供
(平成20年1月末公開予定)

「災害時語学サポーター養成講座の開催」

7月28日(土)と29日(日)の2日間、県内に居住する在住外国人を災害弱者にしないために、通訳や翻訳など言葉の面で支援できる災害時語学サポーターを養成するための講座を高知市内で開催しました。受講者は20代から70代までの大学生、社会人を含めた県内在住31名の方です。中国残留孤児や日本語の達者な外国人も参加してくれました。対象言語は英語のほかに、中国語、韓国語、タガログ(フィリピン)語、インドネシア語、ベトナム語でした。高知県の外国人登録者を言語別で見ると、この6カ国語で90%以上の在住外国人をカバーできることにな

ります(表1参照)。残念ながらベトナム語の受講者はいませんでしたが、英語10名、中国語10名、韓国語5名、タガログ語3名、インドネシア語3名が2日間で10時間の講座を受講し、通訳者としての基礎事項や、災害時を想定したロールプレイでの実践通訳などを学習しました。

	国名	人数
1	中国	1252
2	韓国・朝鮮	750
3	フィリピン	543
4	インドネシア	250
5	ベトナム	236
6	アメリカ	130

英語圏はアメリカの他にオーストラリア(54人)、イギリス(51人)などがある

(表1) 高知県の外国人登録者国籍別上位6カ国と人数(平成18年12月末現在)

初日(28日)の午前中は、県の地震・防災課 小溝智子主幹に「南海地震の基礎知識」というテーマで講義をしていただきました。南海地震についての復習になったという受講者もいれば、この講義で初めて南海地震の恐ろしさを知ることができたという受講者もいて、各受講者にとって意味のある講義となっ



初級コース

日本語ボランティア講師の養成

在住外国人の増加と居住地域の広域化が進む中、当協会では平成16年度からボランティアで日本語を指導していただく講師の養成に取り組んでいます。

今年度も初心者の方を対象にした「日本語ボランティア養成講座」の初級コースと経験者を対象にしたスキルアップコースを開催しました。このうち初級コースは郡部地域のボランティアを養成するため、高知会場のほか初めて中心地域以外の安芸会場で開催しました。

「英語を学習した経験があり、退職後はそれを生かしたボランティアをしたい」在住外国人に日本語を教えることで自分が彼らの日本への窓口になってあげられる」と当講座受講者の受講動機は様々ですが、日本語指導について皆一様に熱い思

向けた取り組み

このような状況の中、当協会では以下に掲げる多文化共生に向けた様々な取り組みを行っています。

1 人権・生活相談

外国人という理由だけで入居を断られるなどの人権侵害や高知で生活する上で困ったことなどの相談に乗ります。(日本語・英語・中国語・韓国語・スペイン語で対応、要予約)

2 英語版の生活情報冊子 (Tosa Wave) の発行

在住外国人が高知で安心・安全・快適に暮らせるように、必要な情報を英語とルビつきの日本語で隔月に発行しています。(当協会HPからもご覧になれます)

3 日本語講座の開催

在住外国人が高知で生活を営む上での基礎的な日本語を習

得できるように、レベルに応じて4つのクラスを開講しています。(初級Ⅰ、Ⅱ、Ⅲと漢字クラス)

4 南海地震対策

今世紀前半までに発生すると言われている南海地震から在住外国人を守ると同時に、彼らの自助・共助の取り組みを支援する仕組みを構築します。

5 日本語ボランティア講師の養成

在住外国人に日本語をボランティアで教えることができるボランティア講師を養成しています。

ここでは、4の南海地震対策と5の日本語ボランティア講師の養成についてさらに詳しく取り上げたいと思います。



通訳としての心構えについて車講師より説明

たようです。

この日の午後から2日目までは、(財)自治体国際化協会が18年度に発行したテキストに沿って、プロ通訳の車順子氏が講義を行いました。言語別でグループを作り、アシスタント役の県・高知市の国際交流員4人にも加わっていただき、受講者の通訳内容などに適宜アドバイスをしていただきました。



3者間コミュニケーションの実践練習(英語)

地震発生時に
において使用頻度
の高い用語(余
震、仮設住宅な
ど)の訳語はこ
の機会に暗記し
てもらい、通訳
時にすぐ出てく
るよう繰り返し
練習をしました。

また、外国人受講者にとってはテキストに出てくる漢字が読めないなどの困難が発生しましたが、日本人受講者などに読み方を教わり意味を確認しながら学習していきました。

今回受講された方には、災害時語学サポーターとして当協会に登録していただき、本県での地震発生時のみならず、今年7月に発生した新潟県中越沖地震のような他県の地震発生時にも、派遣要請に応じて活躍することが期待されています。また、今年度発行するパンフレットの作成やHP・携帯サイトでの情報提供にも積極的にかかわっていただくことが望まれています。

いを抱いてられる方ばかりでした。

初級コースは、「みんなの日本語」のテキストを中心に、普段使っている日本語の特徴はどういうものから入り、日本語授業を実施するうえでの注意点、外国人を前にしての実習、日本語ボランティアとしての心得や学習・生活支援について学習しました。

スキルアップコースは「みんなの日本語」のテキストを中心に、レベルやニーズに合わせた指導をするうえでの留意点、「みんなの日本語」と「みんなの日本語」の学習項目や到達目標の違い、自分の日本語を見直すことなどを学習しました。最終日には、在住外国人に参加してもらって実習を行うなど、実践力を養える講座となりました。

なお、初級コースは来年度、郡部地域のボランティアを拡大・育成するために、四万十市で開催する予定です。



スキルアップコース

頑張りゆうぜよ! Genki 青年会

代表 マット・ダグラス



ちょびっと JAPAN! 映像祭

皆さんは「Genki 青年会」という団体を聞いたことがありますか。「Genki 青年会」とは主に県内に在住の外国人によって運営されているボランティア団体です。創立したのは12年前で、毎年土佐弁ミュージカル公演を、高知県各地で日本人ボランティアの協力で行っています。ミュージカルは外国人によって土佐弁で演じられています。それから脚本もすべて外国人ボランティアが書きますので、まるで手作りミュージカルのような感じです。4月中旬に県下各地の公民館等で上演し、できるだけたくさんの県民に見てもらおうとしています。入場は無料ですが、募金活動を行っています。集まったお金を留学奨学金として県内の中学・高校生に提供します。今年も、安芸市出身の高校生に、アメリカ・ケンタッキー州へ10カ月間留学するための奨学金を出すことになりました。

「Genki 青年会」を設立した理由がいくつかあります。まずは、奨学金で県内学生等の留学を支援することです。次に、県内のALT（外国語指導助手）は地元の人に温かく歓迎して頂いたから、何か還元したいという気持ちでミュージカルをしようと思いつきました。更に外国人が頑張るって方言で行うことによって地元の人との親近感ができ、草の根レベルでの国際化となるのではないかと考えました。そして、これまで活動してきた10年間の実績が認められて、2005年11月に国際交流基金の地球市民賞を受賞しました。



2007土佐弁ミュージカル「ヘラクレスの純愛の巡礼」撮影:角田和夫

去年、新しいイベントに挑戦してみたいと思い「ちょびっと JAPAN! 映像祭」を開催することにしました。高知の良さを3分半の映像作品にし、アカデミー賞風上映会で発表する祭りです。投稿してきたほとんどの映像は外国人の作品でしたので、日本人の立場とちょっと違う視点で高知の美しいところや面白いところをたくさん紹介できたと思います。今年の映像祭は12月8日に香南市赤岡町の弁天座で行う予定です。作品を募集中ですので(11月1日まで)是非、投稿・出席の方よろしくお願ひします。問い合わせ: chobitto.japan@gmail.com

Letters from abroad

氏名: 古本聡子 職種: 栄養士 (JICA 日系社会青年ボランティア)
派遣国: アルゼンチン 配属先: 在亜日系団体連合会 (FANA)
隊次: 平成18年6月派遣 (22回生)



アサード
(日本というパーベキューのようなもの、牛肉に塩を振り、炭火で焼いているところ
高知県人会参加時)

アルゼンチンの日系社会で

南半球に位置するアルゼンチンは国土が日本の約7.36倍あり、南北に広がっています。1886年に初めてのアルゼンチン移民が始まってから現在までに、約3万5千人の移住者とその子孫がここアルゼンチンで生活しています。

その首都ブエノスアイレス市に配属先である在亜日系団体連合会があります。

1994年に発足し、日系社会の代表機関として機能しています。

そこでの栄養士としての主な活動は、講習会や勉強会の開催、デイサービスでの給食、生活困窮者支援施設での調理担当者への指導、FANA通信の原稿作成です。

アルゼンチンは世界一の牛肉消費国です。アサード(日本で言うステーキ)の1人前は約500g! チョリソー(ドイツのソーセージに似ている)やモルシージャ(チョリソーに血を混ぜた物)を合わせると1人前約1kg!! が普通と聞きました。量はさておき、おいしいから食べれてしまうのが怖いところです。

そんな環境でも寿司や天ぷらは、なぜかとても人気があります。

バリオチノと呼ばれる中国人が経営する商店やレストランが集まる地区では米や魚介類、豆腐などの大豆製品、干し椎茸やワカメなどが購入でき、また、日系の方々のお宅の庭や畑では筍やおくら、しそなども作られていたりします。

日本料理はレストランではもちろん、バザーや盆踊りの時に日系人の方々が出すお店でも販売されています。



盆踊り場内で20年前のハッピー(オレンジ色を着て焼き鳥を焼く
(ハッピーがとてもキレイに見えたのは1年に1度しか着ないからとか))

盆踊り時に新しく届いたハッピーを着て太鼓を叩く子どもたちと踊る子どもたち
(今回届いた“あつたか高知”のハッピーは主に太鼓を叩く子どもたち用にしようです)



高知県からの移住者が多いといわれるブエノスアイレス州の州都であるラプラタ市(ブエノスアイレス市の東南60km)で行われた盆踊り(1月に開催され、市の行事となっている)でも、うどんや焼き鳥、寿司などの日本料理が販売されていました。

任期終了まであと残り9カ月ほどとなりましたが、日本型食生活を少しでも多くの方に知っていただけるように、今後も日系2世の栄養士さんや栄養士過程の学生さんたちとも可能な限り連絡を取りたいと思っています。

これからのK I A主催事業のお知らせ

(来年3月までの予定)

・メルマガを開始しました！

当協会が発行するメールマガジン(略して「K I Aメルマガ」)がこの9月から皆様のお手元に配信できるようになりました。主に県内の国際交流・国際協力・多文化共生に関するイベント情報、その他さまざまな情報を月1回程度のペースでお届けします。もちろん登録は無料です。皆様方からの情報の提供もお待ちしています。

登録の手続きはすごく簡単！K I Aのホームページ(日本語)にあるメルマガのページを開いて、あなたのメールアドレス(携帯は不可)を入力してみてください。

KIAメールマガジン登録・解除フォーム

メルマガは月1回程度発行いたします。

[▶ サンプルを見る](#)

メールマガジン登録 Registration	メールアドレスを入力してください メールアドレスを入力して「登録」ボタンを押してください。	登録
メールマガジン解除 Cancel	メールアドレスを入力してください メールアドレスを入力して「解除」ボタンを押してください。	解除

・国際ふれあい広場 2007 (最終ページに詳細を載せています)

日程：10月13日(土)・14日(日) 会場：こうち男女共同参画センター「ソーレ」

・国際ボランティア入門講座

国際ボランティア(県内・海外)の制度や条件、応募方法などについて初心者に分かりやすく説明するとともに、すぐにできる国際ボランティアの情報も提供して受講者とボランティアを直接つなげます。

日程：10月19日(金)・20日(土) 会場：K I A研修室

・民間国際交流・協力団体連絡協議会、リーダー育成セミナー

来年度のK I A事業について県内の国際交流・協力関係団体への周知と第一線で活躍している国際交流・協力活動家を招いて組織や人材育成ノウハウを伝授していただきます。

日程：2月中旬

事業実施日の1カ月前までに当協会HPやメルマガにて詳細をお知らせします

大きな旅から小さな旅まで、幅広いサービス!!
旅のことなら何でもご相談ください。

<営業内容>

- 海外・国内団体及び個人旅行
- 学校教育旅行
- 海外・国内各種パッケージ旅行
- 宿泊・観光タクシー・レンタカー・貸切バス・フェリー ほか
- 海外・国内航空券予約発券

国土交通大臣登録旅行業第640号

tos 土佐電トラベルサービス

〒780-0806 高知市知寄町2丁目2-41 知寄町マンション1階
TEL088(882)0111 ファクシミリ088(883)2877
e-mail staff@tos-travel.com

INFORMATION BOARD

新しい県国際交流員の紹介

はじめまして。高知県国際交流課の中国人国際交流員の宋璐(ソウロ)と申します。日本に来る前は故郷の国際交流の窓口 安徽省外事弁公室という役所で4年間働きました。安徽省と高知県が1994年に友好省県の関係を締結したことはご存知ですか。そのため、中国にいたときは、高知から安徽省にいらっしゃった方々とたくさん出会って、友達となりました。高知という土佐の国は一体、どんな所だろうと、興味がわいてきました。ですから、今年のJETプログラムに応募し、4月に高知に参りました。日本での長期駐在は、今度で2回目です。大学院の時代に、交換留学で神戸で1年間を過ごしました。お洒落な神戸も大好きですが、今高知ならではの山、川、海に完全に酔いました。安徽省は中国の東に位置し、6400万人を有する内陸のところですよ。北部に三国遺跡、南部に世界遺産の黄山など、名所旧跡がたくさんあります。また、独特の酒文化や省民の素朴な性格など、高知県と似ているところが多いです。これからはずっと両省県の友好のため、自分の力を尽くしたく存じます。よろしくお願いします。



ソウ ロ
宋 璐

(中国安徽省出身)

「国際ふれあい広場 2007」のご案内

今年も国際協力・交流に関する総合イベント「国際ふれあい広場 2007」を以下のとおり開催します。盛りたくさんの内容となっていますので、お問い合わせの上ぜひお越しください。



大場久美子さん

主催：国際ふれあい広場 2007 実行委員会・財団法人高知県国際交流協会

共催：JICA 四国

協賛：JAL 高知支店

日時：10月13日(土)・14日(日) 10:00～17:00(日曜日は16:00まで)

会場：こうち男女共同参画センター「ソーレ」(高知市旭町)

内容： (13日)

大場久美子さん(女優)による基調講演会(13:00～14:30)

講演テーマ「私とボランティア～自分の出来る小さな一歩～」

国際土佐っ子メッセージ(14:45～16:45) - 中学・高校生による
弁論大会 -

最優秀発表者には高知 - 東京間 JAL 往復航空券が贈呈されます。

チャリティを目的としたインドネシア民芸品の展示販売(10:00～
17:00)

高知城英語ガイド学習会(14:00～16:00)

国際協力・交流活動写真パネル展 ほか

(14日)

ワールドキッチン(12:00～14:00) - チュニジア・インドネシア・
フィリピン料理を賞味するコーナー -

チャリティを目的としたラオス・インドネシア・グアテマラ等民芸品
の展示販売(10:00～16:00)

日本文化体験(13:00～15:00) - 呈茶 -

JICA ボランティア体験談&募集説明会(11:00～16:00)

民間国際協力団体による活動報告会

国際協力・交流活動写真パネル展, 国際理解講座 ほか



ワールドキッチン(昨年の調理風景)

(財) 高知県国際交流協会

〒780-0870 高知県高知市本町4-1-37

TEL : 088-875-0022 FAX : 088-875-4929 H.P. : <http://www.kochi-f.co.jp/kia/> e-mail : kia@mb.inforiyoma.or.jp